令和７年７月
県農政課

新燃岳噴火による火山灰の水稲栽培への留意事項について（Ver１）
（Ｑ＆Ａ）

新燃岳噴火により，農業用水に火山灰が混じり，火山灰の混じった水が水田に供給されることで，水田の表面が灰色になり，稲の生育や，収量・品質に影響を及ぼすのではないかとの懸念の声があります。

火山灰が水田に入った場合の水稲栽培への留意事項について，Ｑ＆Ａ方式で，整理しましたので，これを参考に，水稲の適切な栽培管理をお願いします。

※　このＱ＆Ａは，水稲生産者等の様々な疑問等にお答えするためのもので，
　質問等がございましたら，適宜，その回答を掲載したいと考えております。

（問１）
　火山灰が水田に入ると沈殿して固まり，肥料を入れる作業などで支障をきたすおそれがあるのではないか。また，追肥の量は，栽培暦で定められた基準よりも多く散布した方がよいのか。

（答）肥料を入れる作業面，肥効面では支障はありません。

　また，火山灰自体は酸性が強くても，土の緩衝能力により，ある程度中和されるため，施肥等に影響することは考えにくい。追肥については，栽培暦に記載のある内容に基づき，施用してください。

（問２）
　灰が多く混じった水を水田に入れると，表面が灰で覆われて根に空気が入らず，稲の生育に影響が懸念されるのではないか。

（答）灰がほ場に流れ込んでも，灰は粒子であり，表面を密閉することはないので，生育に影響はありません。（稲は還元状態を好むので，水が重要）

（問３）
　今，分げつをしていて，稲穂が大きくなって（この時期は）収穫を大きく左右する時期である。いくら水が来ても，灰が水田に入れば，分げつに影響があるのではないか。

（答）分げつは，水と光，肥料によるもので，灰がほ場に流れ込んでも，分げつに影響はありません。（分げつには，特に水が重要）